

《吉井千春先生追悼文》

訃報

日本禁煙学会編集委員を長年勤められた、吉井千春先生が令和8年4月3日ご逝去されました。
(編集委員長 津谷隆史)

日本禁煙学会雑誌の発展への貢献

山本蒔子
一般社団法人 日本禁煙学会 理事長

日本禁煙学会雑誌は作田學先生が編集長となり、2006年に創刊されました。2009年には編集委員長が金子昌弘先生に代わり、編集委員には吉井千春先生と私がありました。2011年第6巻2号から、編集委員長が川根博司先生、副編集委員長に吉井先生が就任されました。その後、2014年第9巻1号から私が編集委員長になり、吉井先生は副編集委員長を続けて下さいました。2024年11月に私が理事長になり編集委員長を退任するまでの11年の間、副編集委員長の吉井先生と一緒に編集に励みました。吉井先生は2011年から2024年までの長い間副編集委員長をお勤め頂き、日本禁煙学会雑誌の発展に大きく貢献されました。

日本禁煙学会雑誌投稿規定は、2006年2月に策定され、その後何度も改訂され、現在は2020年改訂の規定がHPに掲載されています。吉井先生は改訂にも取り組んで下さいました。投稿された論文を査読に提出する前に、委員長と副委員長で、最初に目を通すのですが、投稿規定に沿っていない論文が多く、吉井先生とよく嘆いたものです。また、永い間には二重投稿、査読者と著者のトラブル、等種々の問題がありましたが、いつも吉井先生の冷静な判断で乗り切ってきました。査読が終了した論文は、最後に、編集委員が目を通した後に掲載します。吉井先生は、いつもいち早く論文をチェックして、的確な指摘を示して下さいました。

吉井千春先生、先生と一緒に日本禁煙学会雑誌の編集に携わることが出来たことは、私にとっては忘れることのできない思い出です。永い間本当にありがとうございました。

心からご冥福をお祈り申し上げます。

KTSNDとニャン先生について

加濃正人
一般社団法人 日本禁煙学会 理事、
祐和会大石クリニック 精神科

心理的ニコチン依存を認知の側面から評価する加濃式社会的ニコチン依存度調査票 (KTSND) は、私の名を冠してはいますが、その実は吉井千春先生の精力的な研究活動によって形をなしたものです。

2003年8月、あるメーリングリスト上で「タバコの効用があると錯覚するのはニコチン依存症の症状」という議論が盛り上がった折、KTSNDの原案が提示されました。数日後、吉井先生から原案を整然とした質問票に仕立て直したものが届きました。その素早さと徹底ぶりを出発点として、ワーキンググループでの議論を重ね、2005年に現行版 (ver2) が完成、英語版・韓国語版・中国語版など多言語版も生まれました。先生の口癖は「やれる範囲でやる。やるのなら徹底的にやる！」でした。

産業医科大学や関連病院の呼吸器科を長らく拠点としていた先生は、病院職員や禁煙外来患者、学会参加者など幅広い対象にKTSNDを用いた調査研究を積み重ね、主著論文は18編に上ります。

数年前から体調を崩されながらも2025年11月の第19回禁煙学会総会 (大宮) に参加しておられました。「ニャン先生」の愛称で多くの人に慕われ、いつも場を和ませてくださった先生の笑顔が懐かしいです。2026年2月まで外来診療を続けられた先生は、2026年4月3日に静かに逝かれました。先生が育てた禁煙心理学は、確固たる潮流として今も根づいています。